NICU留学記

2009年3月より，神奈川県立こども医療センター新生児科では全国の若手医師を対象とした「新生児医療のための短期有給研修医制度」をスタートさせました．本コーナーでは，この研修に参加した若手医師の奮闘の様子を紹介します．

留学生：川戸　仁
国保旭中央病院→神奈川県立こども医療センター
研修期間：2009年3月26日～2009年6月26日

第3回：集中治療だけではないNICU

入院の約7割が院内胎児診断例であり，低出生体重児だけでなく，予後が厳しい赤ちゃんの入院も，自施設と比較すると格段に多いです．それゆえに産前からご家族とかかわることが多く，説明に同席させていただく機会も数多くありました．6月上旬に担当した18トリソミーの赤ちゃんは，12日間の生涯を懸命にまっとうしました．その日々を通じて感じたのは，グリーフケアは，やはり集中治療と表裏一体をなすもので，NICUにおいて避けて通ることができないということです．専門職などを「ないものねだり」するのではなく，大事なのは，私たちがご家族に寄り添っている「想い」であることを再認識しました．これは，すべての赤ちゃんに言えることではないかと思っています．

3ヵ月の短期研修期間中の入院数は87名（超低出生体重児9名，極低出生体重児13名，心疾患16名，脳外科疾患5名，外科疾患14名）でした．さまざまな疾患を，担当医ではなくとも自施設での1年分以上経験させてもらったことは大きな財産です．自施設に戻ってからこだわっていこうと感じたのは，以下の点です．①低出生体重児の管理（生後72時間の細やかさ），②自施設で行える，より良い搬送前の管理（自施設では他施設に搬送していた疾患の診療を通じて），③積極的な産前訪問（胎児診断例のご家族の受け入れのスムースさから），④後輩の指導（teaching is learning：見学医学生や研修医にNICUの魅力を伝える努力），⑤神奈川で知り合った同世代の新生児科医との交流．

最終日には盛大な送別会の中，研修修了書までいただき，本当に言葉がありませんでした．この場をお借りして，このような研修の場を与えてくださった豊島先生をはじめ神奈川県立こども医療センターのスタッフの皆さん，留守を守ってくれた旭中央病院のスタッフに厚く御礼申し上げます．ようやく新生児科医としてのスタートラインに立てたと思っています．この経験を地域の赤ちゃんのために還元できるよう，今後とも精進していきたいです．（了）

●留学記録　3ヵ月の短期研修を通じて，「研修は時間ではない」と再認識しました．